

モンゴル国カザフ人社会における文様・装飾利用動態 —装飾文化の維持に関わる要因の分析を中心に—

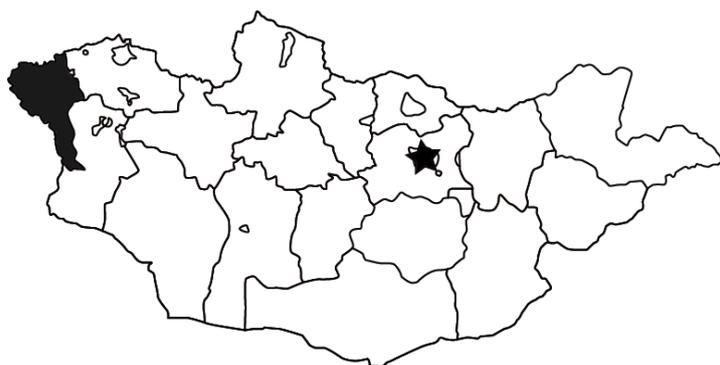
廣田千恵子

はじめに

本研究はモンゴル国カザフ人社会において日常的にみられる装飾の使用について、装飾を使用・利用する習慣の維持を支えてきた社会的背景の解明を目指すものである。これまでの研究により、カザフ人の日常生活の中でもとりわけキーズ・ウイ(киіз үй)と呼ばれる天幕型住居内部に著しい装飾がみられることが明らかとなっている(廣田2017)。本稿では、(A) カザフの天幕型住居キーズ・ウイを中心に、(B) カザフの定住家屋スタック・ウイ(Ыстык үй)と(C) モンゴルの天幕型住居ゲル(гэр)をそれぞれ比較することによって、キーズ・ウイ内部の装飾状況の特徴を明確にする。さらに、比較によって明らかとなったキーズ・ウイにみられる装飾上の特徴から、カザフ人がキーズ・ウイの中に積極的に装飾し続ける要因を考察する。

1. 調査地概要

本研究の対象であるモンゴル国のカザフ人は、モンゴル国内に約10万人居住していると言われている(2015年調べ)。これは、モンゴル国の全人口のおよそ4%に該当する値である。モンゴル国に居住するカザフ人のうち、約9万人がモンゴル国最西端に位置するバヤン・ウルギー県に居住している(地図1)。



地図1：モンゴル国地図(黒星印は首都ウランバートル、黒塗りはバヤン・ウルギー)

バヤン・ウルギー県はモンゴル人民共和国時代に当時の党の方針であった少数民族保護政策に基づいて1940年に成立した県である(二木1988)。バヤン・ウルギー県の全人口のうち、カザフ人が占める割合は約80%に及ぶ(2016年調べ)。モンゴル国内において同県は「カザフの土地」として知られているほど、カザフ固有の文化的特色を強く維持している地域である。この地域における主な使用言語はカザフ語で、一

部ではモンゴル語も使用されている。バヤン・ウルギー県の全世帯のうち4割がこれを利用して牧畜を専業として営んでいる（2016年調べ）。

バヤン・ウルギー県はアルタイ山脈山中に位置している。県の95%以上の土地が標高1600m以上の地点に位置し、最も高いところで4300m、最も低いところで1300mと高低差がある。同県の年間降雨量は100mm程度と少ない。一方、アルタイ山脈山中に降る雨量は年間400～500mm程度であり、この雨が山中から低地に流れ込み、豊かな植生を作り出している。バヤン・ウルギー県のカザフ牧畜民はこうした自然環境を利用しつつ、季節ごとに移住する生活を送っている。

2. モンゴル国カザフ人の2つの住居

モンゴル国カザフ人は天幕型住居キーズ・ウイを彼らの伝統的な住居として生活してきた（写真1）。キーズ・ウイは、組立、解体、運搬、修理を居住者自身が行うことが出来るという点において、移動を常とする牧畜民の生活に欠かせない住居である。現在、カザフ牧畜民は春から秋にかけてこの住居で暮らしている。この住居の構造上の特徴は、天窓と壁を繋ぐ屋根棒にある。キーズ・ウイの屋根棒のうち、壁と接続する先端は曲がっている。このため、キーズ・ウイの天井はドーム状となり、内部の空間は広々としている。一方、この住居には内部が広い分、暖まりにくいという難点がある。つまり、キーズ・ウイは厳冬のマイナス30度以下に達するバヤン・ウルギー県での冬の生活には適さない。

この問題を解決し冬の生活を快適にするために、カザフ人はスタック・ウイと呼ばれる定住家屋を冬営地に構えるようになった（写真2）。とくに、1970年代よりこの住居を所有する人が増えたと言われている。この住居は一般的に平屋で、内部は複数の部屋に分けられているか、一間である。スタック・ウイでは室内に設置されたストーブに石炭を入れて焚くことによって、部屋全体が暖まり冬でも快適に過ごすことができる。



写真1 キーズ・ウイ（2017年6月撮影） 写真2 スタック・ウイ（2016年6月撮影）

バヤン・ウルギー県に居住するカザフ人はこの2つの住居を季節に応じて住み分けて生活している（表1）。ただし、住み分け方は各々の生活形態によって異なる。季節ごとに移動する牧畜民は、春から秋にかけて天幕型住居キーズ・ウイで生活し、冬営

地にいる時だけ定居家屋スタック・ウイで暮らす。

表 1 カザフ人の季節ごとの住居分け状況

時期	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
牧畜 カザフ人	スタック		キーズ						スタック			
	冬営地		春～秋営地						冬営地			
定住 カザフ人	スタック						キーズ 併用					

一方、市・郡の中心部で生活する定住者は、基本的には通年スタック・ウイで生活する。ただし、キーズ・ウイを所有している定住者は6月中旬から9月初旬にかけて敷地内に別途キーズ・ウイを建てて併用する。その理由は、夏期はスタック・ウイの中に熱がこもってしまい、過ごしにくくなるためであるという。このため、定住カザフ人は夏を迎えると寝具をキーズ・ウイに運びだし、そこで就寝する。また、カザフ人は来客時に客人をキーズ・ウイに案内して接待する。とくに、夏期は人の往来が頻繁になる時期のため、キーズ・ウイを常に整えて備えておく。以下では、バヤン・ウルギー県在住のあるカザフ牧畜民とカザフ定住民が所有する2つの住居内部の装飾状況を比較した。

①サグサイ郡カザフ牧畜民 M 家のキーズ・ウイとスタック・ウイ

サグサイ郡に居住するカザフ牧畜民 M 家は、年に2回、6月中旬と8月末に移動する。M 家では冬営地にいる10月初旬から翌年6月中旬までの間は定居家屋スタック・ウイで生活する。夏営地にいる6月中旬から8月末までは天幕型住居キーズ・ウイで生活する。また、冬営地にいる時でも、気温が高まって来た5月頃や、寒さが厳しくなる前の9月頃はキーズ・ウイを建てて併用する。M 家のキーズ・ウイには、住居の上部、壁、床、扉付近に至るまで満遍なく多種多様な装飾がみられる(写真 3,4)。一方で、スタック・ウイの内部にはキーズ・ウイほどの装飾がみられない(写真 5,6)。



写真3 M家キーズ・ウイ寝具周辺
(2015年撮影)



写真4 M家キーズ・ウイ全体
(2017年6月撮影)



写真5 M家スタック・ウイ玄関
(2012年10月撮影)



写真6 M家スタック・ウイ寝具周辺
(2012年10月撮影)

M家の2つの住居でみられる装飾状況を表にまとめると、次のようになる(表2)。

表2 牧畜民M家の2つの住居の内部装飾状況比較

	キーズ・ウイ内部装飾			スタック・ウイ内部装飾	
	項目	模様(文様)	点数	項目	点数
天井	織り紐	羊	2	なし	
	布飾り[緑:既製品]	羊	4		
梁	刺繍壁掛け布	羊、花	7	紙ポスター	3
寝具 周辺	織り紐	羊、幾何学	2	織り紐	2
	ベッド脚装飾布	羊、花	5	ベッド脚装飾布	5
	ベッド手前装飾布	花	3	ベッド手前装飾布	3
	枕カバー	花	4	枕カバー	4
	ベッド用マットレス	羊	4	ベッド用マットレス	4
台所 扉	防砂壁	幾何学	2	なし	
床	フェルト敷物	羊	5	フェルト敷物	5
	絨毯	動物ほか	2	絨毯	4

*緑字:市場などからの購入品・既製品

*赤字:民族文様

2つの住居で共通して使用されている装飾は、寝具・枕カバーなどに使用される装飾品であった。これは、寝具を移す際に装飾もそのまま移動させていることによる。また、床に敷かれるフェルト敷物サルマックと絨毯にも、それぞれ装飾がほどこされているが、これらも両方の住居で使用されている。

一方、キーズ・ウイでのみ使用されている装飾品と装飾された家具もある。これらはキーズ・ウイの構造に合わせて、そこで使うために作られたものである。たとえば、天井にみられる文様つきの織り紐は、キーズ・ウイの上部を覆うフェルトを引いて巻き付けるために使用する。壁かけ布は、現在では全面に刺繍がほどこされて装飾のための布として扱われているが、元々はキーズ・ウイの内部の防寒を目的として作られたものである。しかし、この刺繍壁掛け布をスタック・ウイで使用すると、石炭を焚いたときに出る空気のせいで刺繍が汚れる可能性があるため、大抵の人々はこれをスタック・ウイを使用することを好まない。また、扉脇の内壁に使用する防砂壁も、キーズ・ウイの壁の形状に合わせて作られており、キーズ・ウイにおいては砂と害獣を避ける重要な役割を果たす家具であるが、壁や床に隙間がないスタック・ウイにおいては不要なものである。

装飾に使用されている模様は、主にカザフ文様である（表 2）。カザフ文様は、主にヒツジの角あるいは内臓をモチーフにして作られている（廣田 2017）。牧畜民にとって財産であるヒツジをモチーフにした文様は、それを使用した人に豊かな状態をもたらすことを願って用いられる。M 家の住居内装飾には、こうしたヒツジの身体的部位をモチーフとして作られたカザフの民族文様が積極的に使用されていた。

②ウルギー市カザフ定住民 K 家のキーズ・ウイとスタック・ウイ

ウルギー市定住民 K 家は、2000 年に牧畜をやめて、同年よりウルギー市に定住するようになった。現在、K 家は基本的に通年スタック・ウイにて生活をしているが、7 月から 10 月にかけてはキーズ・ウイを併用する。この家は他の定住民よりも長くキーズ・ウイを使用している。その理由は、この家には毎年観光客が訪れる機会があり、観光客にキーズ・ウイの内部を案内するためである。K 家においても、キーズ・ウイには著しい装飾が見られるものの、スタック・ウイではそれほど確認できない（写真 7,8）。



写真 7 K 家キーズ・ウイ寝具周辺
(2012 年 7 月撮影)



写真 8 K 家スタック・ウイ客間
(2012 年 12 月撮影)

K 家の 2 つの住居内の装飾状況をまとめると、表 3 になる。

表3 定住民 K 家の 2 つの住居の内部装飾状況比較

	キーズ・ウイ内部装飾			スタック・ウイ内部装飾		
	項目	模様(文様)	点数	項目		点数
天井	織り紐	羊、幾何学	2	なし		
	布飾り ^[緑:既製品]	羊	4			
壁	刺繍壁掛け布	羊	4	絨毯(+壁紙あり)	1	
	絨毯	羊ほか	4			
寝具 周辺	ベッド脚装飾布	羊	3	ベッド脚装飾布	3	
	ベッド手前装飾布	花	2	ベッド手前装飾布	2	
	枕カバー	花	1	枕カバー	1	
	ベッド用マットレス	羊	2	ベッド用マットレス	2	
台所 扉	防砂壁	幾何学	2	なし		
	扉飾り	羊	1			
床	フェルト敷物	羊	1	絨毯	4	
	絨毯	動物ほか	2			

*緑字：市場などからの購入品・既製品

*赤字：民族文様

K 家の 2 つの住居において共通している装飾は、寝具周辺のものと同様に床に使用する絨毯だった。フェルト敷物は、もともと 1 枚しか所有していないこともあり、防寒のためキーズ・ウイの内部でのみ使用していた。

K 家においても主に装飾に使用されていた模様は、ヒツジをモチーフとしたカザフ民族文様であった (表 3)。

以上、M 家と K 家の所有する 2 つの住居内部の事例からは、カザフの住居内部の装飾状況として次の点を指摘することができる。

- ・カザフ人が居住する 2 つの住居のうち、とくに天幕型住居キーズ・ウイの内部において装飾性が高く、多種多様な装飾がみられる。
- ・装飾の模様には、主にヒツジをモチーフとしたカザフの民族文様が使用されている。
- ・どちらの住居においても、寝具周辺と床の装飾は同様に使用される。
- ・一方、キーズ・ウイで使用される大半の装飾品と装飾された家具は、木造定住家屋スタック・ウイの形状には適さない、あるいは機能的に不要である。

すなわち、カザフ人は装飾する対象として、住居を選択しているというよりむしろ、天幕型住居およびそこで用いられる家具を選択していると言えるだろう。

3. カザフとモンゴルの天幕型住居

カザフ人は天幕型住居キーズ・ウイを装飾する場所として選択し、そこに積極的に装飾していると考えられるが、そのキーズ・ウイの内部の装飾には具体的にどのような特徴が挙げられるか。キーズ・ウイの装飾にみられる特徴を明確にするために、モンゴルの天幕型住居ゲルの内部装飾状況との比較を試みる。

天幕型住居に住まう遊牧民は、その住居の形式によって大きく二つのグループに分けられるという (トーボー1985: 85)。カザフの天幕型住居キーズ・ウイとモンゴルの天幕型住居ゲルは、一見すると同じ形をしているが、屋根棒の形の違いによってそれぞれ異なる構造をしている。前者は「トルコ型」、「キルギス型」と呼ばれる形状タイプの住居である (トーボー1985: 86)。この住居は天窓と壁を繋ぐ屋根棒が曲線材であるため、住居の上部はドーム状となり、高さが出る。一方、モンゴルの天幕型住居

は「モンゴル型」、「カルムク型」と呼ばれる形状タイプの住居である（トーボー1985:86）。これは、前述のトルコ型と異なり屋根棒が直線材で、屋根が円錐をかたちづくり、低くなる。つまり、この2つの住居はそれぞれ外部からみて違う形状のもの、すなわち違う民族の住居であることが一目でわかる（写真9,10）。



写真9 カザフのキーズ・ウイ
(2017年6月撮影)



写真10 モンゴルのゲル
(2017年7月撮影)

キーズ・ウイとゲルの内部には、それぞれ住居内部のヒト・モノの配置に一定のルールがある。たとえば、どちらの家においても入口から最も離れた奥を上座とし、入って左側を男性の場所、右側を女性の場所と認識している。寝具は壁にそって置かれ、入って左側手前には馬具が、右側手前には調理道具などが置かれる。カザフ人もモンゴル人も自分の家の中を美しくしようと心がけ、住居内部の至るところに民族文様をはじめとする様々な模様をほどこしている。一方、キーズ・ウイの内部とゲルの内部には、装飾において複数の相違点も確認できる（写真11,12）。



写真11 キーズ・ウイ内部 (2017年6月撮影)



写真12 ゲル内部 (2017年7月撮影)

表4は両者の住居内装飾状況をまとめたものである。なお、表4のキーズ・ウイ装飾状況はバヤン・ウルギー県サグサイ郡に居住する複数の牧畜民宅の2012年の住居内装飾状況を参考にまとめた。ゲル装飾状況は2017年7月に調査をおこなったモンゴル国トゥブ県アルガラント郡に居住する牧畜民宅を参考とした。

表4 キーズ・ウイとゲルの内部装飾状況比較

	カザフ/キーズ・ウイ内部		モンゴル/ゲル内部	
	項目	装飾(文様)	項目	装飾(文様)
天井	織り紐	羊、幾何学	天窓・梁(手描き)	雲
梁	布飾り	羊	布飾り	十二支
壁	刺繍壁掛け布	羊、花	刺繍壁掛け布	英雄、馬
	絨毯[緑:既製品]	羊、動物他	絨毯	動物、幾何学
寝具	ベッド脚装飾布	羊、花	枕カバー	花
	ベッド手前装飾布	花	長持(手描き)	吉祥、金桶
周辺	枕カバー	花	ベッドカバー	
	織り紐	羊、幾何学		
台所	ベッド用マットレス	羊		
	防砂壁	幾何学	布飾り	幾何学
扉	扉飾り	羊	扉、棚(手描き)	雲、動物
	フェルト敷物	羊	フェルト敷物	吉祥
床	絨毯	羊、動物他	絨毯	動物、幾何学

*緑字：市場などからの購入品・既製品

*赤字：民族文様

表4をみると、キーズ・ウイの内部装飾はゲルのそれと比べて項目が多く、装飾品および装飾がほどこされた家具の種類が多様である。写真のように、お互い住居の至るところに装飾している様子は確認できるが、キーズ・ウイの内部装飾はゲルと比べると装飾範囲が広い様子もうかがえる。また、装飾としてほどこされている模様を調べてみると、カザフ人もモンゴル人も装飾に自分たちの民族文様を使用しているが、カザフ人の方がより積極的に使用している。さらに、既製の装飾品、装飾された家具の使用率にも差がみられる。モンゴルのゲルの方がカザフのキーズ・ウイよりも、既製の装飾品の使用率が高い。

こうした状況からキーズ・ウイの装飾上の特色として、①装飾の種類および範囲が広い、②民族文様の使用率が高い、③既製の装飾品の使用率が低いということが挙げられる。

4. 天幕型住居内部における装飾状況の違いを生み出す背景

カザフのキーズ・ウイとモンゴルのゲルの住居内部装飾状況には複数の相違点がみられる。こうした相違点からは、カザフ人が装飾行為に積極的である様子うかがえるが、本項ではそうした違いを生み出す背景について、具体的に検証する。

①装飾の種類および装飾範囲の差を生み出す背景

カザフにおいて住居内の広い範囲での装飾を可能にしている要因のひとつとしては、カザフの伝統的な手芸技法が影響していると考えられる。表5は、カザフとモンゴルそれぞれに伝わる手芸技法を一覧にしてまとめたものである。牧畜を主な生業とし移動を常とする彼らにとって、機織り機など大きな用具を所有してモノづくりを行うことは難しく、モンゴルでもカザフでも必然的に刺繍や杭機織り、編み物などの多くの道具を使用しない手芸が発達してきた。両者に伝わる手芸技法には共通点が複数みられるが、カザフのかぎ針刺繍と杭機織りはモンゴルには見られない技法であり、これらが両者の装飾状況の違いを作る要因のひとつであると考えられる。

表 5 カザフ・モンゴル手芸技法比較一覧

【技法】	【カザフ】	【モンゴル】
刺繍	あり(かぎ針・針)	あり(針)
刺し縫い	あり(針)	あり(針)
フェルト加工	あり	あり
織り	あり(杭機・重機・枠機)	あり(枠機)
編み物	あり(編み棒)	あり(編み棒、台)
巻きつけ	あり	なし
手描き	あり	あり
彫刻	あり	あり

*赤字：特徴的な手芸技法

*灰字：現在では使われなくなった技法

(1) かぎ針刺繍ビズ・ケステ

カザフ人はかぎ針を用いて布に刺繍する(写真 13)(廣田 2017)。これをカザフ語でビズ・ケステ(біз кесте)という。この技法はかぎ針を使って布に刺繍をする技法である。縫い目は一般的にチェーン・ステッチとよばれる鎖縫いと同一形状になる。チェーン・ステッチはモンゴル人の間ではホニン・ホルボー(хонин хорвоо:羊の連なり)とよばれ針でおこなう刺繍である。これをカザフ人のようにかぎ針で刺繍した場合、針で刺繍するよりも2~3倍の速さで刺繍することが可能である。たとえば、かぎ針刺繍では、速い人であれば幅180cm×高さ110cmの布の全面に1~2か月程度で刺繍することができる。この技法はカザフの住居内部を刺繍で満たすことを可能にする重要な技術であるともいえる。



写真 13

かぎ針刺繍をおこなうカザフ人女性
(2016年6月撮影)

(2) 杭機織りテルメ

カザフ人は杭機を用いて織りを行い、織り紐を作る技術をもつ(写真 14)(廣田 2017)。この織りのことをカザフ語でテルメ(терме)といい、この技術によって作られる織り紐のことをテルメ・バオ(терме бау)という。

杭機織りとは前後の地面、あるいは床に差し込まれた杭に経糸を結び付け、経糸を前後に引いてしっかりとテンションをかけつつ、緯糸を差し込んで織る技法のことである。織る際に、経糸をすくい取ることによって文様をほどこす。

カザフ人は織り紐テルメ・バオを道具として住居内部で使用する。たとえば、テルメ・バオは天幕型住居を建てる際に天窓に結び付け、天窓を持ち上げたときにそれを

下方へ引いてバランスを保つために使用される。天窓に結び付けられたテルメ・バオはそのまま残され、床に接する側の先に大きな石か砂袋を結びつけ、住居を強風から守る重りとする。このように使用する織り紐の事を、カザフ語でジェル・バオ（жел бай）という（廣田 2017）。そのほか、屋根となるフェルトの端にはテルメ・バオが付けられており、これを引くことで屋根が巻きやすくなっている。家が完成した時には住居内部の装飾のように上部の至るところにこの紐が見られる。この紐はベッドの手前にも結び付けられている。これは、来訪者がむやみにベッドに座って整頓された状態を崩さないようにするために張られている（写真 15）。

こうした織り技術および織り紐はモンゴルにはなく、この織りはカザフとモンゴルの装飾上の違いを明確に示すものであるともいえるだろう。



写真 14 (左) 杭機織りテルメの様子 (2012 年 6 月撮影)

写真 15 (右) 織り紐の利用 (ベッド手前) (2017 年 6 月撮

影)

②民族文様の使用率の違いを生み出す背景

カザフ人の住居内部装飾には民族文様が多用されているが、これにはモンゴル国においてカザフ人が少数民族という立場にあることがひとつの要因として考えられるだろう。つまり、カザフ人は自分たちの民族性を他者に示すために、民族文様を積極的に使用しているといえるのではないか。

しかし、家の外ではなく中に文様を使用するのはなぜだろうか。これについては、前述のとおりキーズ・ウイとゲルの外見上の差がはっきりしていることから、外側に過度な装飾をほどこす必要がなかったのではないかと考えられる。また、彼らがスタック・ウイに刺繍布をほどこそうとしない理由として、装飾が汚れることを避ける傾向にあることから、外側の装飾が雨風によって汚れてしまうことを考慮して敢えてほどこさないのではないか。

一方、家の内部に民族文様を用いて装飾をする理由としては、遊牧民の習慣として外から来る客を自分たちの家の中に招いて良きものを呼び込もうとすることが関係していると推察される。モンゴル牧畜民の一般家庭における日常的な人の往来が報告

されているように（堀田 2018: 81）、遊牧民にとって家の中とは頻繁に人が訪れる空間であり、人に見られることが意識されている場所である。それゆえに、遊牧民は住居内部を常日頃から綺麗に整頓することを欠かさない。カザフ人の住居においてもこれは例外ではない。

このように住居内部という人にみられる可能性が高い場所に、カザフ人は自分たちの民族文様をほどこすことによって、なんらかの効果をしようとしたのではないか。その効果とは、相手が非カザフ人であれば、文様はカザフの民族性を顕示するための効果をもち、相手がカザフ人であれば、少数民族という立場に置かれている自身のアイデンティティを確認する作業に使用されていたと考えられる。

くわえて、モンゴル国のカザフ人社会という限られたコミュニティの中で生きる人々にとって、周囲が民族文様を多用している状況にあるならば、自分も同様に文様を使用することによって集団の一員としての意識を高め、コミュニティから逸脱しないようにするための行動をとってきたとも読み取れる。

③既製品の使用率の差を生み出す背景

キーズ・ウイとゲルの内部にみられる装飾には、それぞれの家の女性が自分で作ったものの他に、市場などで売られている既製品が使用されることもある。表をみると、モンゴル牧畜民宅の住居内部には既製の装飾品が複数確認される。これは、モンゴル人が手芸をしないという事を意味しているのだろうか。

マイダル（1988）によると、かつてゲルの外部および内部の装飾は地主の階級的帰属を示すものであった。一般的な遊牧民家庭においても、生活必需品や家具を美しく気持ちがいい状態にしようと心がけ、手作業によるフェルト敷物の製作・縫製や、手書きで文様を描いて家具製作をおこなっていたという。モンゴル遊牧民は、元来住居内部の装飾を彼らの間で受け継がれた手芸技法を用いておこなっていたのである。

ところが、社会主義期に入るとこの状況に変化が起こった。1930年代後半以降、ソ連の指示によるモンゴルの経済政策に基づき、全ての羊毛が農牧業協同組合ネグデルにおいて集められるようになると、個人的なフェルト敷物の製作・縫製がおこなわれなくなり、個人が家庭において手工芸を継続することができない状況になった（風戸 2016: 14）。社会主義体制崩壊後は再び個人による手工芸文化が復興するが、表 4 で装飾状況を示したモンゴル国トゥブ県のモンゴル人牧畜民宅での聞き取りによれば、その家庭では結局 2000 年ごろにはフェルト敷物の製作をやめてしまったという。

その家では、社会主義体制崩壊後から 2000 年頃に至るまでの期間、フェルトの敷物を主に次の 2 つの目的に基づいて製作していた。その製作の目的とは、ひとつは自宅で使用するため、もうひとつは家を訪れる観光客に販売するためである。ところが、首都ウランバートルから 100km ほど離れた場所に位置する同地域は市場経済化の影響を受け、工場製の絨毯が簡単に手に入るようになると自分で敷物を作る必要がなくなった。さらに、お土産品についても、観光客はウランバートルの店で工場製のフェルト製品、革製品を買うようになり、個人が作る商品への需要が高まることはなかつ

た。このため、同地域のモンゴルの手工芸は市場経済化の影響を受けた形で再び廃れていった。同時に、住居内装飾においても既製の商品の使用が増えていった。

一方、カザフ人の場合は、社会主義体制崩壊後、彼らが自分たちの家族のために製作した住居内装飾そのものが商品として価値を持つものとして変化していった。聞き取りによると、2000年頃からは海外からやってきた NGO の指導を受けながら古い装飾品をリメイクして、観光客や海外輸出用の商品を作るようになった。これによりカザフ人は自分たちが自分の手で作った物、あるいは住居内装飾そのものが経済的価値を持つことを自覚するようになる。このことは、彼らが既製の装飾よりも自分で作ったものを使用しようとする理由のひとつであると言えるだろう。

5. 総括・考察

①住居内部装飾状況の比較検討からみえること

以上、(A) カザフの天幕型住居キーズ・ウイと (B) カザフの定住家屋スタック・ウイ、(C) モンゴルの天幕型住居ゲルの内部の装飾状況の比較検討から、カザフの天幕型住居における装飾の特徴として次の点が明らかとなった。

カザフの天幕型住居キーズ・ウイは、刺繍・織りなどの技術を用いてほどこされた多種多様な装飾で満たされている。キーズ・ウイは主に夏期に使用される。キーズ・ウイの内部は、カザフ人にとって他人の目に触れる場所であり、それゆえに定住家屋スタック・ウイ以上に装飾がほどこされている。ゲルとの比較から明らかとなったキーズ・ウイ内部の装飾上の特徴は、①住居内部における民族文様の積極的な使用、②装飾品の種類の豊富さ、③既製のものではなく居住者が自ら制作した装飾品の多用といえるだろう。

民族文様の積極的な使用の背景には、彼らが少数民族である立場から民族性の顕示あるいは自己アイデンティティの確認行為を意識しておこなっていたのではないかと考えられる。装飾品の種類の豊富さについては、かぎ針刺繍技法や杭機織り技法など、カザフ人が受け継いできた伝統的手芸技法が生み出した状況であることを指摘した。モンゴルとは異なる技法を用いて装飾することは、カザフらしい固有の文化の維持とその顕示に繋がっていただろう。さらに、市場で多様な装飾品が流通している現在においてもなお、カザフ人が自ら制作した装飾品を使用している点については、カザフ人が手仕事品の経済的価値の利用を意識している可能性を示した。こうしたカザフの天幕型住居内部の装飾状況の特徴を生み出す一連の理由・背景は、カザフ装飾文化の維持に関わる要因としても捉えることができる。

②天幕型住居の使用と装飾文化の維持の関係性

そして、カザフ装飾文化の維持は天幕型住居の使用そのものとも密接に関係している。既述のとおり、カザフ人は天幕型住居の内部に最も積極的に装飾をおこなっている。カザフ人社会において天幕型住居が使用されている状況は、装飾の日常的な使用と装飾文化の維持をもたらしていると言えるだろう。しかしながら、カザフ社会にお

けるグローバル化やカザフ牧畜民の定住化が進む今日において、カザフ人がいまなお天幕型住居を使い続けているこの状況は、様々な社会的要因があってこそ成り立つものである。

そこで、本稿で指摘したバヤン・ウルギー県のカザフ人の現状を考慮し、現代カザフ人社会において人々が天幕型住居キーズ・ウイの使用を続ける理由を分析し、装飾文化の維持との関連性を示したい。

カザフ人が現在も天幕型住居を使用し続ける理由は、第一に生業として牧畜という選択肢が選ばれやすい環境にカザフ人自身がいることにあるだろう。はじめに触れたとおり、モンゴル国のカザフ人が居住するバヤン・ウルギー県は、季節に応じた移動式牧畜に適した環境にある。ひと世帯当たりの家畜の所有数はそれほど多くはないが、県の全世帯のおよそ 4 割が牧畜を専業として暮らしていることからもうかがえるように、バヤン・ウルギー県に暮らすカザフ人にとって牧畜は重要な生業である。それゆえに、家畜と共に移動し暮らす生活を支える住居である天幕型住居の使用は必然である。

第二に、モンゴル国カザフ人が他者への接待の場として伝統的に天幕型住居キーズ・ウイを選択してきたことが挙げられる。すでに牧畜を営むことを辞めて街で定住しているカザフ人も、夏期になると定住家屋と併用して天幕型住居を使用する。定住カザフ人にとって天幕型住居は、夏の生活を快適にするための場所であると同時に、来客時の接待や慶事の際の祝宴をおこなう場所として自然に選択する場所でもある。つまり、天幕型住居の使用には、彼らの文化的習慣とカザフ人としての価値観が関係しているといえる。

第三に、少数民族としての立場も天幕型住居の使用に強く影響していると考えられる。外観からすぐに「カザフ」と判断しうるドーム状の天幕型住居を使用することによって、住居そのものを一つの民族性を示すマークとして使用してきたのではないか。とくに、カザフ草原からの移民であった彼らにとって、やっと自分たちの土地として与えられた場所で天幕型住居を使うことは、その場所を自分たちの土地として自他ともに示し確立していくために必要な手段だったとも推察できるだろう。

総じて、カザフの装飾文化は装飾に直接的に関係する要因に限らず、装飾の実践の場である天幕型住居の使用とそれを促す様々な社会的経済的な要因が複合的に重なり、その結果として維持されてきたといえるだろう。しかしながら、本稿の考察はあくまで現在明らかになっている状況からの判断にすぎない。また、モンゴルの天幕型住居内の装飾状況に関する資料が乏しいことは課題でもある。本稿の分析結果はあくまでもひとつの可能性として受け止めつつ、今後はモンゴル国カザフ人社会における装飾文化の歴史的変遷状況の具体的な調査をおこない、同社会にみられる装飾使用を支える基盤の解明に努めたい。

謝辞

本研究・本稿に関わる現地調査は、(財)片倉もとこ記念沙漠文化財団 2016 年度若手研究者助成、(財)平和中島財団平成 24 年度日本人奨学生奨学金を受けておこなわれました。関係者の皆様に、深く御礼申し上げます。

参考文献

(日本語文献) 50 音順

風戸真理 (2016) 「モンゴル国における住居フェルト生産の変遷—工場製品と手工業の製 一」東北アジア研究センター叢書 58 モンゴル牧畜社会をめぐるモノの生産・流通・消費

トーパー・フェーガー/磯野義人 (1985) 『天幕—遊牧民と狩猟民のすまい—』エス・ピー・エス出版

西村幹也 (2011) 「モンゴル国のカザフ人」『日本とモンゴル』46-1

廣田千恵子 (2017) 「モンゴル国カザフ人の装飾文化」アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明研究叢書 15

廣田千恵子 (2013) 「カザフの伝統的手芸技法—モンゴル国バヤン・ウルギー県の事例から—」千葉大学ユーラシア言語文化論集 15

二木博史・今泉博・岡田和幸訳/モンゴル科学アカデミー歴史研究所 (1988) 『モンゴル史 1』恒文社

堀田あゆみ (2018) 『交渉の民族誌—モンゴル遊牧民のモノをめぐる情報戦』勉誠出版

マイダル.D/加藤九祚 (1988) 『草原の国モンゴル』新潮選書

吉本忍 (2013) 『世界の織機と織物』国立民族学博物館

(カザフ語文献) アルファベット順

Әлима Ысқаққызы 2007 “Сырмақ өнері (サルマックの技術)” Алматыкітап

Баталова.Ә.Н 2009 “Қазақтың кесте өнері (カザフの刺繍技術)” Алматыкітап

(モンゴル語文献) アルファベット順

БаянӨлгий аймгийн статистикийн хэлтэс 2017 “Статистикийн эмхэтгэл 2016он (統計集 2016 年)” Өлгий хот

Монгол улсын үндэсний статистикийн хороо 2016 “Хүн ам орон сууцны 2015оны завсрын тооллого нэгдсэн дүн (人口・世帯に関する 2015 年の統計結果)” соёнбо принтинг, Улаанбаатар

Султан.Т, Зулъяфиль.М 2010 БАЯНӨЛГИЙ АЙМГИЙН НЭВТЭРХИЙ ТОЛЬ (バヤン・ウルギー県百科事典) Соёмбо принтинг